

# オオクチバス繁殖なわばり雄を『友釣り』で効率的に捕獲する方法

山本充孝・上垣雅史・金辻宏明

## 1. 研究目的

オオクチバス(バス)は春に砂礫質で風波が穏やかな場所で産卵し、しばらくは雄親が卵やふ化仔魚を保護する。そのため、産卵期には漁港などに卵を保護するなわばり雄が散見されるが、この親魚の簡便な捕獲方法は考案されていない。そこで、釣竿による効率的な捕獲方法を検討した。

## 2. 研究方法

これまでにバス親魚を捕獲するためにワームや活アユなどを試したが、ほとんど捕獲できなかった。一方で、産卵床に侵入したブルーギル(ギル)には猛烈な攻撃行動を示したため、繁殖なわばりに侵入する囷(おとり)としてギルを活用できないか検討した。バス親魚には5~6月に水産試験場の港湾で自然産卵した25個体を用いた(表1)。図1の仕掛けを用いて産卵床付近にギル囷を提示し、初めての攻撃行動(ファーストバイト)までの時間と捕獲されるまでの時間を記録した。

表1 産卵床保護オオクチバス親魚の捕獲状況

	供試数	捕獲数	捕獲成功率(%)
雄	21	19	90.5
雌	4	2	50
計	25	21	84.0

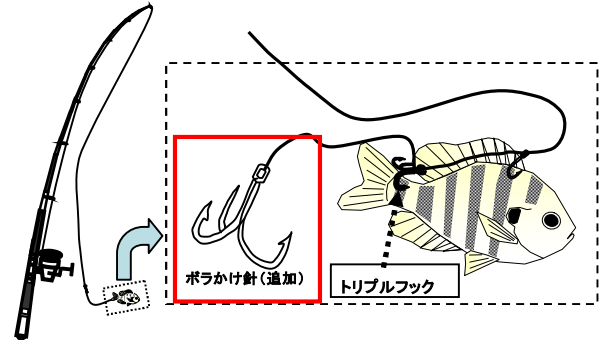


図1. なわばりバスを捕獲する釣り仕掛け(最終型)

## 3. 研究結果

囷としてギルを用いると、これまでほとんど捕獲できなかった雄バス親魚を90%以上捕獲できた。また、雌バス親魚も半数は捕獲できた。

捕獲に要した平均時間はファーストバイトには5分、捕獲には8.6分であった。産卵床付近に卵を捕食するギルが存在する環境条件や大型のギルを囷として用いた場合には、バス親魚は卵への捕食圧の高まりを察知してより攻撃的となったためか、ファーストバイトまでの時間が短縮された(図2,3)。また、ギルへの攻撃は一度始まると頻繁に繰り返されたが、尾鰭のトリプルフックでは針掛かりが悪かったため、ボラかけ針を追加し、ギルに近付いてきたバスを竿をしゃくって引っかけるように改良すると効率よく捕獲できた(図1,4)。

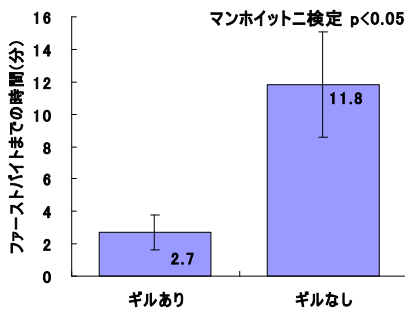


図2. 外敵の有無と釣れやすさの関係

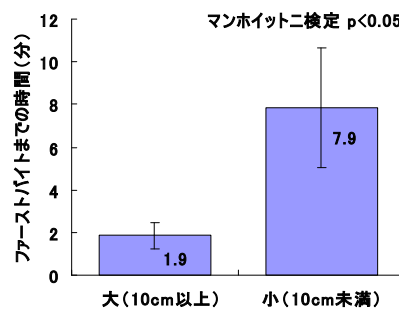


図3. 囷(ギル)の大きさと釣れやすさの関係

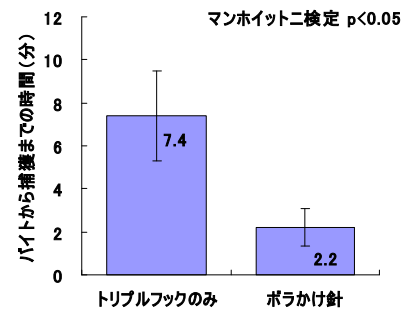


図4. 仕掛け改良による捕獲の効率化

